

洋書輸入協会会報

VOL. 20

NO. 6

(通巻230号) 昭和61年 6 月

理事会報告

4 月28日(月)

(一) 定時総会

運営について協議した。

(二) 東京外郵便協同協議会

4 月16日(木)総会がひらかれ、役員選出の結果、小林英一氏(丸善)が会長に再選され、25名の幹事中に日和田氏(紀伊國屋書店)、高橋氏(洋販)、柴田氏(事務局)が選出されたことが報告された。

(三) IFLA 大会

情報と意見を交換した。

(四) その他。

5 月12日(月)

(一) 4 月分収支計算・予算対比表

総務委員会で検討した結果の報告を承認した。

(二) 定時総会

運営について打合せた。

(三) 正会員社名変更

(株)アカデミック・プレス・ジャパンが賛助会員ハーコート・ブレース・ジョバノビッチ出版社を吸収合併した結果、つぎのように社名を変更したことが報告された。

新社名 (株)ハーコート・ブレイス・ヨヴァノビッチ・ジャパン

(四) 名誉理事長司忠氏の逝去

同氏が5月1日逝去され、5月4日密葬がとりおこなわれ、協会として弔意を表したことが報告された。

5月28日青山斎場において葬儀および告別式がとり行われる。

(五) その他。

定時総会報告

昭和61年度定時総会は、5月26日(月)午後2時から、学士会館(本郷)にて開催された。

正会員101社のうち、出席41社、委任状提出38社、合計79社で総会は成立。賛助会員の出席は5社であった。

司会者、栗原氏(洋販)の開会のことばののち、同氏から昭和60年度に入会された新会員、株式会社三菱総合研究所、ニューベリハウスパブリシャーズインターナショナルインコーポレイテッドの2社が紹介された。

ついで飯泉理事長から大要次のような挨拶があった。

「1月の新年懇親会の挨拶の中で、為替問題にふれて各エコノミストの見解を総合すると、円は対米ドル200円を中心に、プラス・マイナス15円。ただし上限を150円と見るエコノミストもいると申し上げた。今日の為替相場は如何であろうか。大体170円前後と思うが、1月以降の情報は、ソ連において所得倍増計画が発表された。

理事会報告..... 1	外国出版社紹介 No.117 6	来日外人名簿..... 7
定時総会報告..... 1	海外ニュース..... 7	総代理店ご案内..... 7
名誉理事長司 忠氏逝去さる..... 2	ダイレクトリー委員会からの おしらせ..... 7	広 告..... 8
Book Review No.115..... 3	おしらせ..... 7	
洋書輸入協会史 (9)..... 4		

この計画は、なへんにあるのか、たとえて申すなれば、軍事予算の大削減なくしては実現不可能と見る。アメリカにおいても軍事費削減案を議会に提出したいとのことである。そうであるなれば、もはやインフレは世界的にないと思う。従ってデフレ傾向が世界的に侵透するであろう。国内においては同時選挙があるのか、微妙な段階であるが、いずれにしても、わが洋書輸入協会が団結することによって、日本の近代化、国際化等に対して大きな力を発揮すべき時が至ったと痛感する。」

ついで理事会報告にうつり、小林理事長代理（丸善）から、毎月2回の定例理事会および必要に応じ臨時理事会を開催して諸般の問題にとりくんだ。月例の収支・予算対比表の審査、また懇談会の開催、海外出版物輸入増大に係わる文教予算の増額についての陳情、英国出版社代表团との懇談会開催等を行った。来たる7月にはCULCON（日米文化教育会議）が、8月にはIFLA（国際図書館連盟）東京大会が開催されることを報告、詳細は会報の理事会報告、および次に行われる各委員会報告にゆずった。

ついで各委員会報告にうつり、総務（丸善・松井氏）、会報（極東書店・一條氏）、企画渉外（ユサコ・山川氏）、ダイレクトリー（東光堂書店・石内氏）、洋書交換（国際書房・服部氏）、雑誌（日本出版貿易・岸氏）、文教（紀

伊國屋書店・吉本氏）、通関（洋販・栗原氏）、文化厚生（三洋出版貿易・武田氏）から、それぞれの一年間の活動と今後の方針についての報告があった。

ついで昭和60年度決算報告が松井氏よりなされ、佐野氏（南江堂）、山縣氏（内外交易）の監査報告ののち、拍手で可決、承認された。

ついで丹羽氏（緑書房）から関西支部報告、昭和60年度関西支部決算報告がなされ、いずれも拍手で可決、承認された。

ついで役員選挙にうつり、小林理事長代理から選挙管理委員長にUPS・上杉氏、同委員に、中央洋書・前橋氏、福本書院・福本氏、ゲーテ書房・村山氏、白水社・本田氏、教文館・渡辺氏、マグロウヒル・荒木氏、ミロブック・鈴木氏、オリオン・金子氏、三省堂書店・町田氏、トッパン・関野氏、友隣社・山口氏の12社を委嘱、投票に入った。一時休憩ののち、上杉氏から当選者が発表されたが、当選者は次の通りであった。

理事	投票総数	82票、	有効	80票
丸 善			紀伊國屋書店	
極 東 書 店			日本出版貿易	
三洋出版貿易			洋 販	
東 光 堂 書 店			國 際 書 房	

名誉理事長司 忠氏逝去さる

本協会名誉理事長司忠氏（丸善株式会社相談役）は5月1日逝去されました。享年92歳。

同氏は明治26年生れ。明治39年1月丸善に入社、昭和22年10月社長に就任して戦後の混乱期をのりこえ、同社が今日ある基礎を築かれ、46年9月会長に、48年9月相談役に就任されました。海外出版物輸入同業会が再発足した昭和22年10月理事長に就任、48年末まで26年の長きにわたって業界の発展に貢献され、理事長退任後名誉理事長に推され、今日にいたりました。49年1月8日には理事長としての功績に対して協会名で感謝状がおくられました。

丸善株式会社と㈱東京流通センターの合同葬は5月28日青山葬儀所で盛大におこなわれ、理事会代表も参列しました。



ユ サ コ

次点、中央洋書

監事 投票総数 83票、有効 79票
南江堂 内外交易
次点 丸 善

関西支部選出役員

理事 緑 書 房

監事 オーヴィス

総会を一時休憩して新理事会が開催され、互選の結果丸善が理事長に再選された。飯泉理事長から「引続き理事長の大任をお受け出来るものか疑問にも思うが、折角のご意見でもあり心機一転、大任を遂行したい所存である。会員各位のご協力ご支援を切に願います」との挨拶があった。

ついで松井氏から昭和61年度予算案が、丹羽氏から昭和61年度関西支部予算案が提出され、いずれも拍手で可決、承認された。

以上の議事が終了したのち、吉本氏が閉会の挨拶にたち、「ご多忙のところ、長時間にわたって案件をご審議いただきありがたい。わが業界もこれからは、非常に難しい時代に入ってゆくと思うが、新たな理事長のもと、会員間のコミュニケーションを良くして、流通マージンの適正化、業界の発展を図りたい。今後ともよろしくご協力賜わりたく、願います」旨をのべ、総会をとじた。

午後5時から恒例の懇親パーティーにうつり、キャリア・マクミラン・インターナショナルの後藤さんの音頭による乾盃で宴を開き、歓談のひとつきをすごした。

Book Review No.115

Wakeley 他共編 ヘルスサイエンス図書館の基礎知識

A5判 242頁 61年1月刊 日外アソシエーツ ¥3,800

本書は、Patricia Jones Wakeley, Ruby S. May Ed.-Basic Library Management for Health Science Librarians, 2nd edition (Midwest Health Science Library Network, 1982)の翻訳で、ヘルスサイエンス図書館での経験の浅い人々を対象に、図書館と図書館員の役割と機能を紹介することを目的としている。本書の編集母体である中西部ヘルスサイエンス図書館ネットワーク(MHSLN)は、米国国立医学図書館(NLM)の地域医学図書館計画に従ってつくられたネットワークの一つである。Wisconsin Educational Telephone Networkingの開いた会議での実習用資料として作られたものになっており、1971年に初めて教科書として刊行され、以後様々な形で刊行され多くの人々に利用された。その後1975年に現行のMHSLN版の第1版が刊行され、本書はその第2版を慶応義塾大学教授津田良成氏の監修のもとで、東京医科大学教授菅利信氏を代表とする翻訳グループが訳出したものである。

「ヘルスサイエンス図書館が利用者に提供するサービスを改善できるように、そこに働く図書館員に必要とされるサービスの向上や技能の修得を援助する、実

務的かつ基礎的な教科書である」と日本語版への序文に記されている。

第1章の“ヘルスサイエンス図書館/情報センター”ではヘルスサイエンス図書館の歴史と現状を中心とした概論が、第2章の“ヘルスサイエンス図書館の管理”では同図書館および図書館員の役割と機能が述べられている。第3章から9章までは、蔵書の利用・維持・管理、図書選択、受入れからレファレンスサービス・視聴覚サービスまでの実際的な業務が具体的に解説されている。

患者・家族・一般市民への情報サービスを含む地域ヘルスサイエンス図書館の役割は地域の住民にとって非常に大事であることを教えられるとともに、日本ではこのような保健教育システムの発達がおくれていることを残念に思うものである。

しかし、日本の実情とは大きく異なる面があるにせよ、医療関連のライブラリアンにとっては参考になる解説も多いと思われる。参考文献の紹介も十分にあり、広く一般のライブラリアンにも一読をお勧めしたいテキストである。

(S. A.)

洋書輸入協会史 (9)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

11. 洋書輸入再開への努力 (昭和21年8月～22年12月)

昭和21年8月に、同業会が再建され、海外出版物輸入協会として再発足するまでも、各社それぞれで洋書輸入再開への努力を傾注していたが(7.2項参照)、協会発足後は、協会最大の問題としてこれに取り組んでいる。

その努力の最もオーソドックスな方法としては、第8項で述べた貿易庁による輸入計画への協力及びその推進であったが、これは第10項に述べた経緯で、挫折したとしかいいようのないような状態に立ち至る。

これと併行して、およそ考えられるありとあらゆる手段を講じて輸入再開への努力を行った。その主なものは次の通り。

11.1 貿易庁・文部省・CIE への陳情

昭和21年10月1日、丸善(石川・田中氏)、国際(服部氏)、教文館(三品氏)、福本書院(福本氏)の5名が揃い、再建した同業会の披露を兼ねつつ次の陳情を行った。

(1)貿易庁：皆川事務官の紹介により輸入局長最上章吉氏に面会。同氏は充分の理解を示され、早速ESS(注参照)のForeign Trade DivisionのAsst. Chief Mr. G. Robert Flemingに会って輸入許可が出るよう大いに努力しようと口約せられた。

(2)同庁輸入第一課長中村辰五郎氏に面会陳情。

(3)文部省科学教育局調査課長永井維理氏を訪問した所不在のため、代理の村井氏に面会陳情。

(4)CIE(注参照)：Mr. Joseph Brown及びMr. Don Brownに面会、洋書輸入の許可につき援助を要請。Mr. Don Brownからは、書籍の必要性についての深い理解は示されるが、現在の日本の財政上からして、支援は困難である旨を述べられる。

11.2 総合アメリカ研究所

GHQ(注参照)と関係が深いといわれていた総合アメリカ研究所(日本橋区本町服部ビル内)を、理事一同(福本氏欠)にて昭和21年10月16日に訪問、理事長鈴木公平氏、理事下村亮一氏と面会、洋書輸入に関しGHQへの促進運動に協力をお願いした。この関係筋のその後の運動は次の通り。

(1)10月22日、再び同研究所を訪問、今回は下村、加藤、片岡理事と面会。陳情書の提出、ESS・CIEの要人への面会陳情につき教えを乞い、手配を依頼。

(2)10月23日、教文館三品氏、早速CIEのMr. Darginを訪問、同氏不在のため代りのMr. Woodhardに会いDr. Kerrを紹介され、更に担当者はMr. Don Brownであるということで、結局10月1日に会った同氏に行き着く。同氏は「本年は為替の関係で不可能、来年度になれば機を見て再考してみよう」とのこと。

(3)10月30日、理事一同にてESSのForeign Trade DivisionのChiefであるMr. McDermottに面会、理事連名の陳情書を提出の上懇談。同氏は洋書輸入再開に理解を示されるが、現下の情勢においては困難の由。

(4)11月1日、理事一同にてCIEのMr. Don Brownを訪問、CIEのChiefのMr. Nugent宛の陳情書を提出、輸入促進方を懇請する。

11.3 九大教授高橋正雄氏訪問

昭和21年11月13日、丸善石川氏が高橋教授をGHQ経済研究部に訪問、洋書輸入再開促進につき意見を承わる。同教授の意見は、学界権威者への署名運動、外国人記者との懇談を通じて本国の世論喚起、知識人によるNIPPON TIMESへの寄稿など、広く世論に訴えよとのことであった。

(注) GHQ (General Headquarters) 連合国総司令部
CIE (Civil Information and Education Section) GHQの民間情報教育局
ESS (Economic and Scientific Section) GHQの経済科学局

11.4 知識人の署名を取りまとめGHQに提出

以前に、日本学術振興会からGHQに、洋書輸入促進の陳情書を出して頂いたことがあったが、更に昭和21年12月14日の協会懇談会において、同振興会後援の下に知識人・読書人の署名を集めようと決議し、書式を作って会員が活動を始めた。そして昭和22年2月13日の理事会までに、CIE宛分994名、ECC宛分977名の署名を集めることが出来た。

早速これを携え、翌日の2月14日に、丸善石川・田中氏、教文館三品氏の3名でGHQに赴き、先ずCIEを訪ね、Mr. Don Brownに面会懇談すると共に部長のMr. Nugent宛の陳情書を提出。同氏によれば、輸入のドルを持っていない現状では、書籍輸入などは見込薄であるとのこと。

次いでESSを訪ねたがMr. McDermott不在、Mr. C. Wrightに会い懇談の上二世のR. 古寺氏を紹介され再訪を約し、改めて2月20日に同氏を訪問、部長のMr. McDermott宛の陳情書を托した。R. 古寺氏によれば、日本の生産不振による資金枯渇のため、食料や原料の輸入で精一杯であり、洋書については当分見込みがないとのこと。

11.5 米国出版人 Mr. Melcher との懇談

かねてより、外国出版人側から日本への出版物輸入再開を促進して貰おうとの考えを抱いていた協会は、米国R. R. Bowker社の社長で、Publishers WeeklyのEditorでもあるMr. Frederick G. Melcherが、GHQの顧問として来日、約2ヵ月間滞在することとなったのを知り、CIEのMr. Don Brown経由折衝をして、昭和22年4月18日に、東洋軒において協会メンバーとの懇談会を開催した。当日の出席9社、16人。

理事会としては、あらかじめ「米国の出版業者は、日本への輸出に関しかなる意向を持っているか」ということを始め、20ヵ条にわたる質問状を用意している。2時間余にわたる当日の懇談会における、Mr. Melcherの発言要旨は次の通り。

- (1)現在の米国の出版物は、American Books for American Onlyで、その他は全部GI向けである。GIに対しては月に各自1冊位が渡るように、政府が買い上げて配布している。
- (2)紙不足は世界的であって、米国でも同様である。
- (3)従って本の余分はなく、経済不均衡の国へは現在の所輸出出来ない状態である。Motion Pictureについても同じであり、ドイツに対しても同様である。将来に期待するしかない。
- (4)日本へは戦前多くの米国書を輸出したが、現在神田の古本屋街は大繁昌のようである。この点はロンドンやパリと違っており、私も始めて見た現象で大変意外であった。
- (5)「相当額の対日Creditが設定されるという噂があるそ

うであるが」という質問に対し、もしそういうことになれば、書籍を優先的に入れて貰えるよう自分も努力する。しかしその時期は不明である。

- (6)協会より先頃GHQへ提出した陳情書は有効であったと思う。あれはワシントンへ送られ、米国の世論を刺激したと信ずる。
- (7)「米国の書籍展がUSIBAの主催でヨーロッパで開催されたので、これを日本でも開けないか」という質問に対しては、輸入見込みがないものの展覧会を開くことは考えものであろう。これについてはMr. Snyderに相談されたら良いとのこと。
- (8)USIBAは現在は解消して、その事務はH. M. Snyder & Co. が引き継いでいる。
- (9)日本に来て気がついたことは、日本の子供が非常に明るい顔をしていることで、これは日本の家庭が健全である証拠であろう。日本の家庭についての文献があったら、是非知らせて貰いたい。

以上の他、協会側の質問に答えて米国出版事情など、種々の話があったが、詳細は省略する。

11.6 英国出版協会代表 Mr. Marshall との懇談

昭和22年8月に英国より貿易使節が来日、その中に英国出版協会代表で、Wm. Collins社のMr. K. Jackson Marshallが参加しており、協会を訪れた。滞日日数が短く、日程が定まらないので手配が間に合わず、理事に三越・三省堂を加えた臨時理事会を開催して懇談を行った。8月23日のことである。席上でのやりとりの中に、英書輸入促進に関する本題だけでなく、戦中戦後の英国出版事情に興味深い説明があるので、以下にそれも加えて要点を記してみよう。

- (1)英国は戦争中ドイツの爆撃によって約300万冊の書籍を失っただけでなく、プレート及び倉庫に保管中のフラット・シートの50%を焼失した。英国一といわれた取次店のSimpkin Marshallは完全に破壊され、Longmans、Eyre & Spottiswood、Oxford、Pitman、Cassell、Collinsなど著名な出版社の半数が損害を受けた。
- (2)1939に先ず紙不足が始まり、次いで労働力、熟練工の不足となり、1940には港湾の機能が制約されて出版が減少、辛うじて新聞の発行を続けるだけの状態になった。
- (3)1941後半に、カナダからパルプの救援を受けて立ち直

り、あらゆる努力を払って復旧につとめた結果1943、'44には欧州大陸に輸出出来るまでに回復し、1945年8月から'46年7月の一年間に約5,000万冊を輸出して今日に及んでいる。

(4)代価の値上りも戦前の約2倍程度である。

(5)日本への本の輸出は、すべてGHQの意向により決定される。英国としても何回か交渉してみたが、未だ不可能である。

(6)英国もCIEと同様に、British Library in Tokyoを開設したい意向を持っているので、帰国の上必要な手続きをとりたい。

(注) CIEは、昭和20年10月26日に日比谷に図書館を開設

している。

(7)日本側の戦争前のDebtについて。協会側からこれは完済するつもりであるが、現状は御存知の通り送金出来る状態にないので、出来るだけ寛大な取扱いを願いたいと申し入れた所、自分もそのように努力しようとの返事であった。

以上、米国出版界と英国出版界の双方との接触が出来両者の間にニュアンスの違いはあるものの、輸入促進についての協力の約束を取りつけ、先方の事情も分り、未払金の問題までも討議し得て、大きな収穫があったといえる。

(続く)

外国出版社紹介 No.117

Georg Thieme 社小史

ゲオルグ タイエーメ
Georg Thieme社は、1886年、Georg Thiemeにより、ライプチヒにて医学専門出版社として創設された。1943年12月のライプチヒ空襲では、在庫、設備を含む会社全体が灰に帰したが、終戦をむかえ、シュツットガルト市長の勧めにより、同社は、この地に新しい拠点を築いた。間にあわせの社屋での再スタートではあったが、めざましい業績をおさめ、今日では医学専門出版においては、世界で最大手かつ最古のひとつに数えられている。

Thieme社は、これまで、著者、学者、書店等まわりの強い反対にもかかわらず、いくつかの新企画に挑み大成功をおさめてきた。たとえば、1950年代中期のテキスト大量出版である。200~300ページに簡潔にまとめられたテキストは再び医師達を読者としてとらえ、大量印刷、低価格販売により新しいマーケットを開拓した。

1964年には、Günther Hauffの固い信念により「メディカル ポケットブック」の企画がスタートした。これも周囲の予想とは反して、比類なき成功をおさめた。この功績により同氏は、Justus-Liebig-Universitätより名誉医学博士号を授与されている。今日ではFlexibooksシリーズとして知られているものだが、1984年には、印刷タイトル数500、販売1,300万部以上を記録した。

さらにグループ形成としての発展が続く。1970年、ドイツ最古の出版社のひとつ、医学、心理学、獣医学、

一創設百周年を迎え一

地質学、社会科学分野をカバーするFerdinand Enke社(1837年創設)の合併、1980年、自然療法、はり治療等西欧医学に通常含まれない分野や、手の外科等、専門分野の出版を行なっているHippokrates社(1925年創設)の合併である。以降、精神医学、精神療法の出版物をも充実させている。

書籍出版(年間、新刊約300点、改訂再版約80点)活動に加え、定期刊行物発刊(約64点)においても高く評価されている。ドイツ医学雑誌の代表格としてDMW(Deutsche Medizinische Wochenschrift)があり、世界各国の医学研究者に購読され、論文の引用頻度も非常に高い。日本語版も刊行されている。

伝統的なドイツ語出版にもかかわらず、1979年、ニューヨークに子会社Thieme-Strattonを創設し、英語文献の出版に近年、意欲をそそいでいる。現在、グループ全体の新刊書の約3割は英語で出版され、定期刊行物、27誌が英文誌、7誌が英・独二ヵ国語編集となっている。

本年、創設百周年を迎え、ドイツ国内及び海外にて、記念講演会、展示会等が企画、実施されている。ドイツ・ビデオテキスト開発計画に、重要な立場で関与している同社は、今後、従来の出版活動に重点をおきつつも、活動の一環として、電子出版分野、ビデオテープ、ビデオディスクの製造、販売にも取りくむことになろう。

現在、ビューロー・ホソヤが、日本代表連絡事務所となっている。(ビューロー・ホソヤ・細谷 筆)

海外ニュース

「スイスの出版統計」

スイスの1985年の総出版点数は8,409点で前年より僅か22点ながら減少した。オリジナルは7,274点から7,389点へと増加しているが、翻訳書が1,157点から1,020点へと激減したのがひびいている。

スイスは、多言語使用国であるので、使用言語別に見れば、ドイツ語が前年の5,113点から5,264点へと増加、フランス語が2,062点から1,794点へと減少した。イタリア語は、134点から158点へ、ロマン語は24点から49点へと増加、英語は637点から620点へ減少、その他（主として複数言語使用）は461点から524点へと増加している。

(Der Schweizer Buchhandel, Heft 6 より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

ダイレクトリー委員会からのお知らせ

JBIA DIRECTORY 1986 の記載事項につき、次の通り訂正通知がありましたので、お知らせします。お手もとのダイレクトリーにご記入ください。

FILMSCAN JAPAN LIMITED……………21ページ

日本フィルムスキャン株式会社

代表者名：Shinsuke Suzuki, President

代表取締役 鈴木伸介

Specialities : FilmScan Video Titles, Lingual
House Text Titles, Blackwell
ELT Titles and Agent of Collins
ELT

お知らせ

◎ナウカ株式会社で次の通り代表取締役の交替がありました。

新 佐藤 晃

旧 荒木五郎

◎このたび株式会社アカデミック・プレス・ジャパンは、ハーコート・プレス・ジョバノビッチ出版社（HBJ 東京事務所）を吸収し、下記の通り改称した旨通知があり

ましたのでお知らせします。

正会員

株式会社ハーコート・プレス・ヨヴァノビッチ・
ジャパン

なお、アカデミック・プレス関係業務には引き続きアカデミック・プレス・ジャパンの名称を使用することです。

来日外人名簿

- 4月中旬 Mrs. Whisler, Journal Marketing Manager,
University of Chicago Press, Chicago
" Mr. J. Petit, Director, NMPP., Paris
" Dr. Phua, Publisher, World Scientific Pub.
Co., Singapore
4月下旬 Mr. E. Belleval, Sales Manager, CNRS.,
Paris
" Ms. G. Treadwell, Marketing Director,
Harvard University Press, Cambridge,
MA
" Mr. P. Golding, President, Far East Div.,
Addison-Wesley Pub., Co. Reading, MA
" Mr. G. W. Edwards, Sales Director,
Collier Macmillan International,
New York
5月上旬 Mr. A. Gresford, Sales & Marketing
Manager, The Institute of Physics,
Bristol
" Mr. J. Moriaty, College, Trade &
Reference Sale, Houghton Mifflin,
Boston

総代理店ご案内

(株)紀伊國屋書店

☎(03)354-0131

The University of Chicago Press, U.S.A

……………All periodicals

丸 善(株) ……………☎(03)272-7211

Bechtel Information Services, U.S.A

SEC Financial Information and Annual Reports

——入荷・好評発売中——

辞書を補うこの一冊…個人の机上用にも必須

エルゼビア国際略語辞典(第7版)

New International Seventh Edition

Abbreviations Dictionary

Ed. by Ralph De Sola

Abbreviations ● Acronyms
Anonyms ● Appellations
Computer Terminology ● Contractions
Criminalistic and Data-Processing Terms ● Eponyms
Geographical Equivalents ● Government Agencies
Historical, Musical, and Mythological Characters
Initialisms ● Medical and Military Terms
Nations of the World ● Nicknames
Ports of the World ● Short Forms
Shortcuts ● Signs and Symbols
Slang ● Superlatives
Winds of the World
Zip Coding
Zodiacal Signs

判型 16×23.5cm 1,184頁

ISBN0-444-00807-1

定価 ¥15,000

- 単なる略語辞典の域を超えた一大情報パック 欧文文献を扱う方に有益
- 略語20万、語義25万を一冊に収録(前版に比べ、略語数2万3千の増補)
- 巻末約100頁の付録も加えて、学際的な新しい情報の宝庫

(Elsevier) -NE-



日本総代理店

株式会社 紀伊國屋書店

〒160-91 東京都新宿区新宿3丁目17番7号 ☎(03)354-0131(大代表)

昭和61年6月 通巻第230号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室 ☎271-6901

☎530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第1山中ビル ☎371-5329